

岡垣射爆撃場の歴史⑦

―射爆撃場の撤去を求める動き①―

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

1960(昭和35)年12月、米軍芦屋基地が我が国に返還された。基地跡は自衛隊が使用することになった。米軍機は板付(福岡市)や岩国(山口県)の基地から飛来した。それ以後、射爆撃場反対運動が活発化していくことになった。

翌年、農耕被害者の組織として「糠塚・東黒山被害者組合」が結成された。

米軍機による誤射や誤爆が続いた。1963(昭和38)年8月、臨時町議会で射爆撃場撤去を決議した。

同年12月、区長会主催による射爆撃場撤去町民大会が、元松原で開催された。

同月、「元松原・西黒山被害者組合」が結成された。

1965(昭和40)年5月7日、射爆撃場内で、暴風保安林15町歩が焼失した。

この日、米軍岩国基地所属の戦闘機3機が発射したロケット演習弾から引火して、火事になったようだ。

同10日、射爆撃場周辺の糠塚や東黒山の民家の屋根や庭、畑に米軍機から約100発の葉きょうなどが落下した。

同年9月1日、辻守荘町長ら町民代表ら10人は「5月から何回も事故が起きており、命を脅かす危険があるので、直ちに訓練を中止してほしい」と福岡防衛施設局に抗議した。

同日、県立遠賀療養所(現遠賀・中間医師会おかがき病院)の職員代表が花田守(岡垣在住)福岡県職員労働組合委員長とともに「安心して勤務できない。射爆撃場を移転させてほしい」と施設局に陳情した。

誤射事件はもう許せぬ
近く岩国基地へ抗議!

「稲刈りも不安」と辻守荘町長

1965(昭和40)年9月2日の岡垣町の態度



▲対地射爆訓練する米軍ジェット機

高野益男元松原組合長の7人であった。

同10月5日、辻守荘町長と町議会議員長の田原繁城氏の連名で、政府に「防風保安林(三里松原)は住民が保護育成してきたものである。射爆撃場を撤去し、保安林を住民に早く返してほしい」と陳情した。

これ以後、事故の件数は少なくなった。

つづく

同16日には、岩国基地へ出かけた。抗議を2度と起こすな」と抗議した。抗議団は辻守荘町長、小早川隆総務課長、入江高吉糠塚区長、梅野千吉東黒山区長、田熊寅吉被害者組合長、野田嘉六区長会会長、